



横浜陶芸友の会だより

「四〇回記念作品展に向けて」

横浜陶芸友の会 会長 高橋光男

皆様、いかがお過ごしでしょうか。
 二年後「作品展」は40回を迎えます。
 友の会の「作品展」は、陶芸教室とは違い、
 個々に発想し、作陶、焼成された作品が発表
 され、皆様をお互いに刺激しあい素晴らしい
 発表の場となっています。
 40回の節目に「記念作品展」開催を計画い
 たします。
 体力的にも無理が利かなくなり、作風もそ
 れなりに変化し、皆様に楽しめる友の会の「作
 品展」にしたいと思っておりますので、ご協力
 のほどよろしくお願い致します。
 40回の記念作品展に向けて作陶に励みま
 しょう！



38回作品展より

「崩壊」高橋光男
 紙縴りで作成した下地に磁器粘土を
 しみこませ焼成した。1,180℃を超え
 たあたりで腰砕け崩壊する。



第167号

平成 29 年

4 月 1 日発行

総務部より

【役員会の報告】

○2月25日(土) 18時30分より

副会長・各部役員9名で話し合いが行われ
ました。

(事業部より) ・作品展の報告

(専修部より) ・秋期焼成会(型物) 予定

(広報部より) ・「友の会たより」3月末発
行予定

(会計部より) ・年会費納入の確認

(総務部より) ・「友の会たより」の発送
・会員名簿の作成

などが、報告されました。

※各部の会計は、3月末日締めで28年度会計
報告の提出を、お願いいたします。

○次回の役員会

4月22日(土) 18時30分より

(杉田地区センター 集会室A)

・平成29年度の総会に向けての準備

○「総会のお知らせ」

5月13日(土) 13時より

(杉田地区センター)

(最寄駅) 京浜急行杉田・JR新杉田

※各行事についての、御意見・ご要望等を
話し合う良い機会ですので、多くの方がご
出席されることを楽しみにしております。

第三十八回「作品展」 事業報告

会員皆様方のご協力をもちまして、「第三十八回作品展」も無事、終了することができました。ありがとうございます。

今年度は、「かなつくホール」での開催が四回目になり、会場設営や搬出入も手際よくできたとおもわれます。

会も高齢化が進み出展者数が昨年にならなくなりまして。少し残念でしたが力作ぞろいで見ごたえがありました。

【事業報告】

会期 平成 29 年 1 月 10 日(火)～15 日(日)

会場 かなつくホール 3 階ギャラリー A

入場者数 551 名 (昨年 868 名)

出展者数 33 名 (昨年 35 名)

養護学校 1 校 (聖坂養護)

出展数 433 点 (特設数含む)

(昨年 473 点)

特設コーナー「湯飲み」 24 点

懇親会参加者数 12 名 (kubota 食堂)

芳名帳カード記入者数 241 名

(昨年 317 名)

その他

○今回、聖坂養護学校の生徒さんが、「干支の「にわとり」」を出展してくださいました。ありがとうございました。



特設コーナー 課題「湯飲み」



会場風景



私の一品 吉村 希世子

10 年ほど前に右手親指手術をし、リハビリのため手ロクロで時間をかけて作った作品なので、特別愛着を持っています。

○来年度の「特設コーナー」の課題が決まりました。皆様の大好きな「ぐい呑み」です。今まで作られたものでも結構ですので、ぜひお気に入りの一品を出展してください。

(事業部)



「聖坂養護学校」の生徒作品

『第38回 作品展』①

今回は出展者全員に、原稿依頼やお話を伺いまとめてみることにしました。一度に掲載できませんので、数回に分けて掲載したいと思っています。



下村武子さん



○ 出展された作品へのおもい

- ・ 急須、土瓶は使い勝手良く美しい物が出来る迄、造り続けです。
- ・ 木の葉を焼きつけたものも、庭の掠の葉がある限り造っています。
- ・ 手付きの鉢様のものは、友人に頼まれたものの試作品です。

○ 制作での苦労や工夫した点、見どころなど
・ 木の葉天目でなく、木の葉緑釉を試作しました。織部とルリ釉を混ぜた釉薬ですがルリに反応して木の葉がブルーになりました。

○ 今回の「作品展」全体の感想など

- ・ 何人かの方が出展されないのを目の当たりにし、そのうち自分にも起り得るかもと。

・ 数人の方に色々批評や改良点を示唆して戴き、嬉しい出逢いがありました。感謝です。



窪田由紀子さん



○ 出展された作品へのおもい

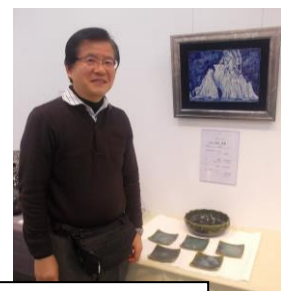
- ・ 和紙染めを覚えて陶箱に。と思い作陶いたしました。

ロールペーパーに絵を描き、それを切り取りダミ筆で水をつけ、呉須は沢山の種類の色を作り筆で乗せ濃淡をつけていきます。濃淡が難しく力作で全国アマチア展に出展したところ「うつわ部門賞」を戴きました。

○ 制作での苦労や工夫した点、見どころなど
・ 一気に仕上げなくてはと思いやっているうちに時間を見たら朝六時になっていました。濃淡を出すのが難しく時間のかかる作業でした。

○ 今回の「作品展」全体の感想など

- ・ みなさん上手になり、人それぞれの個性が出ており勉強になりました。



逢阪博樹さん



○ 出展された作品へのおもい

- ・ 二度は行ってみたいと思っていた仏ヶ浦行ってきました。本当は間近に見たかったのですが叶わず船上から見た奇岩でしたが迫力は満点でした。

次回は地上から見上げてみたい。と、いう願望を込めて描きました。旅の思い出の一枚です。

○ 制作での苦労や工夫した点、見どころなど
・ 二千万年前にユーラシア大陸から分離して日本列島が出来る際の火山活動で出来た物だそうで、荒々しさを出そうとしたのですが上手くいきませんでした。

バックは木々の緑なのですが白い岩を引き立てる為に敢えて木々の濃淡を描いたつもりだったので。

さて、夕闇に見えるかもしれませぬね。○ 今回の「作品展」全体の感想など

- ・ 出展者数は減少しましたが、作風に一段の工夫が見られ、色彩面で色鮮やかな作品が多く出品されていた様に思います。さらに来年が楽しみです。

○作品へのおもいは、自分の作品を傍において置いて使いたいたから造っています。



鍋島泰子さん



○出展された作品へのおもい
 ・ 触ってみたいくなるような、感触の良い作品を創るよう心がけています。

○制作での苦労や工夫した点、見どころなど
 ・ 花器につきましては、生け口の所を内部と外部空間の流れがつながるように切り込みを入れ、丸い点で抑えました。

○今回の「作品展」全体の感想など
 ・ みなさん、自分の表現に磨きがかかり、活力のあるバラエティの作品が多かったと思います。



島本登俊さん



○ランプシェード「夢の国」
 ・ 「こんな虹の橋を渡りたいな〜」
 「こんな国があつたらいいな〜」
 そんな思いを込めて作りました。
 最初作ったのは歪んでいましたが、これは薄くきれいに作れました。
 ・ 今、家にある窯が壊れていて、作品も入ったままです。焼くのを主人に任せきりにしていたのも悪かったかな。
 「もう我慢しろ。」と言われていました。
 来年は、どうしたものかと困っています。



兎森直子さん



○制作での苦労や工夫した点、見どころなど
 ・ 果物皿は安定感に気をつけました。
 ・ コーヒーカップは大きさと持ち易さを意識して作りました

○今回の「作品展」全体の感想など
 ・ 最近、あらためて白菊釉の清潔な白さが好きになって、食器は白がいいように思ったので、白を基調として色々作ってみました。

○小鳥の大名行列について
 ・ 毎年、干支の人形を作っていますが何時もあげてしまうので手元に残りません。それであげられないものにするため、セットにしました。
 「今年はもらえないね。」と言われていました。



○レースドールについて
 ・ 高野さんがお人形の講習をしてくれた時、忘れないうちにすぐ作りました。三体作ったのですが、一体はレースが全部落ちて壊れました。



大内広子さん



○黄瀬戸酸化焼の「竹花入れ」
 ・枯れた竹の花入れを表現するために、黄瀬



石井誠一さん



○出展された作品へのおもい
 ・志野焼の魅力は、10年ぐらいずっとやっているが、普通に焼けない難しいところ。
 ・温度は長石の一番溶け具合いい所に設定している。温度は目安で色見で判断し、溶けていればやめている。
 ・どのように焼くかによって、土と長石の組み合わせを何回もやり自分の好きな焼き方を見つける。窯にもよる。
 ・体力の限界もあり24時間内を目安に溶けやすい志野に挑戦している。



山村 隆さん

○お皿に出来た「カイラギ」について伺いました
 ・これは偶然できたもので「思いもよらないもの作っちゃって、なり損ないみたいで、出すのがちよつと恥ずかしかった。」とのことですが、土鍋用の土に濃い目の白マツトを掛けたら、釉薬が重なって濃くなった所が縮れてこうなったそうです。



出淵僖江子さん

戸釉を二度焼きして流れを出し、「樋」の部分はタンパンを塗り緑色を出すことで、竹の生命力を出してみました。



・鶏の鶏冠の赤は、下絵具を塗り透明釉をかけずに焼いたものです。



○可愛いお人形についてお聞きしました。
 「この発想はどこからきているのですか？」
 ・以前、ニューオリンズを旅行した時、楽しそうな音楽が一杯聞こえるのを作りたい。と思った。サククスやトランペットはイメージです。
 ・ほとんどロクロで胴や足を作りますが、手やパーツは一つ一つ作ります。
 類や楽器の赤は上絵具を焼く前に少し付けたり、他の器の影響で色が出たりしています。



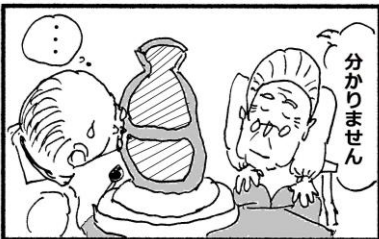
信岡美野里さん



陶陶さん

第 89 号

あかほし



専修部 平成28年度活動報告

*春期焼成会

5月8日(日) 午前の部 10時〜
午後の部 13時〜

受付、粉引き化粧土掛け、木の葉天目受付
13日、19日 素焼き2回

5月22日(日) 午前の部 釉掛け
午後の部 釉掛け

6月19日(日) 本焼き 2回
AM 10時〜
作品引き渡し、昼食会

*8月27日(土) 部会

議題 1、春期焼成会のまとめ
2、来期の予定

*11月19日(土) 部会

来期の予定「型おこしによる織部製作」
に決定

*29年1月14日(土) 部会

「型おこしによる織部製作」準備、打合せ

*2月25日(土) 部会 同上 会計報告

*3月19日(日) AM 9時〜

技能文化会館602室にて

部員による型作り(織部準備)、飛びかな
実習予定



専修部28年度「御本手粉引」



29年度「型ぬきによる織部」

編集後記

●今号から鍋島さんが編集を引き受けてくださいました。今までのマンネリから抜け出して、新しいアイデア・手法で紙面が新鮮・楽しくなりました。 信岡

●今号の作品展特集は六ページでは収まりきらないほど原稿が集まりました。これは昨年一年間の会の活動と会員の力量の賜物で、引き続き今年一年の皆様が活動が楽しみになりました。 季楽軒

●力作の多い「作品展」をご覧になり、この作品はどのような方が、どのように作っているのか?と、お知りになりたい会員も多いと思います。(私もですが)そこで出展者全員の写真と短い紹介文を3回に分け掲載いたします。会期中にお会いできなかった方やお話が聞けなかった方に原稿を依頼いたします。ご協力お願いいたします。 鍋島弘義

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより 第167号

(平成29年4月1日発行)
発行人 横浜陶芸友の会
会長 高橋 光男

編集責任者 広報部長 吉良謙